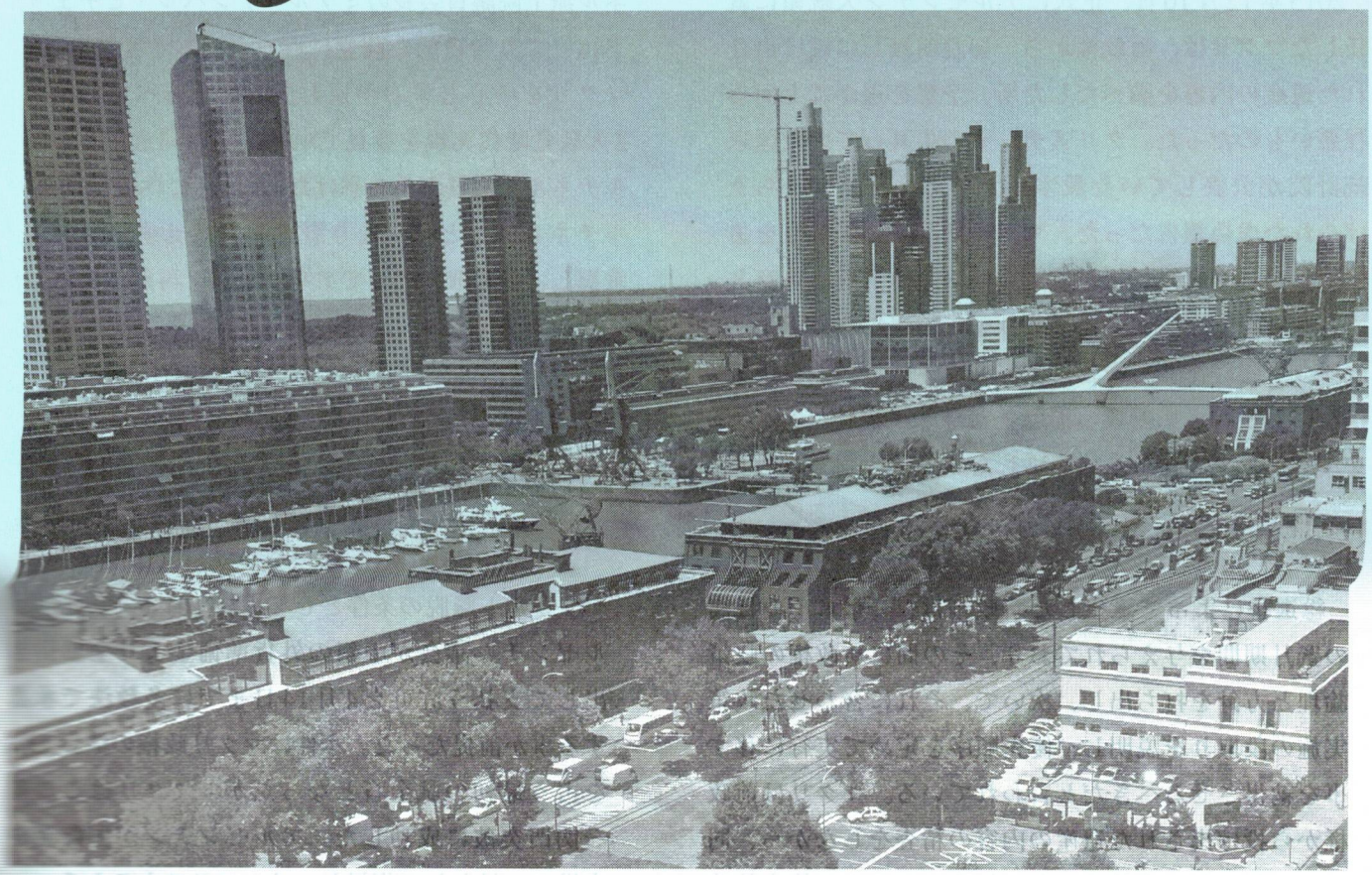
一般社団法人 日本アルゼンチン協会

Argentina
アルヘンティーナ

No. 69



プエルト・マデロ、 ブエノスアイレス（2012年11月撮影、水上前駐亜日本大使ご提供）

一般社団法人 日本アルゼンチン協会 会報　2016年12月

300日を迎えたマクリ政権の政局展望（菊池　寛士）..... 2

林屋永吉さんと私（中曽根　悟郎）..... 5

“生誕100年”を迎えた「ラ・クンパルシータ」
（島﨑　長次郎）..... 8

アルゼンチン政治経済短信（吉村　佳人）..... 9

Resumen en castellano（Irene Gashu）..... 11

協会の活動案内

～当協会主催「タンゴ音楽の集い」－来年度開催予定..... 11

～第5回定時総会、懇親会は、例年同様に5月下旬を
予定..... 11

協会の活動報告

～10月6日（木）～10月15日（土）茨城県境町
町立長田小学校生徒がアルゼンチンを訪問..... 12

～10月21日（金）当協会主催
第31回「タンゴ音楽の集い」..... 12

～10月24日（月）
フェステイバル ラテイノアメリカーノ2016へ協賛..... 12

～10月26日（水）武井外務大臣政務次官主催懇談会..... 12

～10月28日（金）茨城県長田小学校
「アルゼンチンの日の集い」..... 12

～11月6日（日）アルゼンチン共和国杯（東京競馬場）... 14

～11月12日（土）第11回 アルゼンチン大使館主催
ゴルフトーナメント..... 14

～11月26日（土）第4回 日本・アルゼンチン親善交流
サッカー大会..... 14

トピックス

第24回日亜経済合同委員会がブエノスアイレス市で開催
..... 15

300日目を迎えたマクリ政権の政局展望

菊池　寛士

2015年12月10日、正式にアルゼンチン大統領に就任したマクリは、前政権から一切説明無しに投げ出された遺産の内容を調べだした所、予想を遥かに上回る程悪いものだった。クリスチーナの牛耳っていた国家統計院が公表していた数字は、全て机上ででっち上げられた虚偽報告だった。マクリは現実の厳しさをまず国民に説明して理解してもらい、なお一層の決意と協力を求めたかったが「夏休み中の国民に前政権の悪政振りを曝け出して前途に不安感を与えるのは得策ではない」と言う私的政治顧問ドュラン・バルバの進言を受けて、3月まで待つ事にした。これはマクリ政権支持者間に優柔不断過ぎると云う不満を与える一因となった。

総選挙によって誕生した新政権は、一般に100日間の蜜月期間を与えられており、その間に新政権の政策論理と方針を打ち出し、次いで、それに合わせた政策実施の段取りを説明し、優先順序を定めて実行に移す事を納得させるべきだと言われている。マクリは前政権から投げ出された遺産の内容の精査をしながら、同時に一刻の猶予も許されない経済システムの抜本的改革実施に踏み切らざるを得なかった。

ここでその後、今日で321日目を迎えたマクリ政権のバランスシートを総括してみよう。まずプラスの面:

1. 外国為替取引の完全自由化という公約の実施。急激なインフレと対ドル・ペソ相場の大型デヴァリューが懸念されたが、14ペソ台に落ち着かせるのに成功した（現在では15ペソ台）。
2. マクリ政権は上下両院ともマクリの選挙母体であったCambiemosだけでは定足数を満たせない。重要法案の議会通過には野党の同意を受ける事が必須条件である。下院に於いては元PJ党セルヒオ・マッサ派の賛同があれば十分だが、上院に於いてはキルチネル派所属議員が絶対多数を占めている。キルチネル政権に尻尾を振って来た地方各州知事を説得する役目を果たし、キルチネル派と見られる上院議員を少なくとも是々非々主義に鞍替えさせたフリヘリオ内相の功績は大きい。すでに、キルチネル派上院議員会長のミゲル・アンヘル・ピチェットは、より合理的な政党にペロニズムを変革させ、マクリを中心とする中道右派と再生新ペロン党の2大政党時代実現を夢見ている。彼に同意する旧キルチネル派議員が手を挙げだしたのは、マクリがキルチネル時代とは異なり野党を敵視せずに対話を重視し、手を取り合ってアルゼンチン再建に努力しようと呼び掛けているのに好感を抱き出した結果と見て良い。
3. アルゼンチンの債務不履行状態の原因であった外貨建て亜国債に関するホールドアウト組と全額即金払いで93億ドルの支払協定を締結した（2016年3月）。然しこれがニューヨーク控訴院より正式にデフォルト離脱の条件として承認される為には、アルゼンチン議会が中銀の外貨準備金より全額引き出して支払う許可を4月14日までに多数決で承認する事が前提だった。本件はマクリ政権の議会工作を占う最初の試金石となったが、マクリはこの第一関門突破に成功した。アルゼンチンが国際金融市場の一員として復帰し、インフラストラクチャー整備・発展に不可欠な投資資金導入等の為の新規起債や国際金融機関からのプロジェクト借款を受ける為には不可避の道だった。マクリ政権にとってもう一つの重要な法案は、この道への扉を開ける「施錠法の破棄」であった。キルチネル時代に対外債務再編と銘打って外貨建て国債を75%切り捨て新規国債と交換させる事にし95%に達する旧国債保持者が最終的に渋々応じた際、当時の経済相ラバーニャが立役者としてLey de Cerrojo（いわゆる施錠法）と称する法律を立法化し、今後対外債務の再編がホールドアウト組に適用される事態になっても再編条件がより有利になるような事は一切認めないとし、ア国政府自身にもそのような解決策の適用を禁止すると決めた。この「施錠法」を議会が多数決で破棄しない限り、マクリ政権誕生後急変してアルゼンチン政府に好意的な態度を示し出したグリエッサ判事の裁定が効力を発揮できない。上下両院にて多数決の賛同を得て施錠法の破棄に成功した

のは政治的に見てマクリにとって極めて大きな勝利だった。

4. 1997年（BILL CLINTON）を最後として中断されていた米国大統領のアルゼンチン公式訪問が本年3月オバマ大統領の公式訪問で復活した。アルゼンチンと米国の関係は、反米姿勢を顕著にする事で国民の人気を維持しようとしたクリスチーナ前大統領の国際問題音痴症により冷え切っていたが、親欧米姿勢を明確に示したマクリ政権は米国より好感を持って迎えられ、米国に次いで巨大な自由経済圏であるEUとの関係も深耕させようと動き出して海外より高く評価されることになった。逆に中国との関係は、前政権時代に中国からの借款でサンタクルス州に2か所水力発電所を建設する計画協定に対し、マクリが消極的な態度を鮮明にした為、急激に冷却し始め、中国向け大豆輸出に影が差している。
5. 最後に、選挙法が改正され、始めてエレクトロニックス機械を全国の投票場に導入することを義務づける法律が下院を通過し、上院に回付された。上院で可決されれば、従来選挙結果の確定に2週間位かかっていたのを翌日可能とし、且つ不正選挙疑惑をほぼ一掃出来るものと期待されている。

次にマイナスの面としては：

1. ①社会不安と青少年の犯罪増加に大きく関与している麻薬カルテルとの本格的な対決、②貧困の撲滅、特に全てのアルゼンチン国民が上水道と下水道の完備された自分の屋根の下で暮らせるようにすること、③公職にある人間全ての汚職・腐敗を厳しく取り締まること、④教育の普及と質の向上、教職員の矜持を高める事、⑤法律の尊重、司法権の独立性を高め政党色に染まらない判事や検事を増やす事、⑥企業の投資意欲を高める下地を整備し、雇用の増大と天然資源の効果的な活用を図り、インフレの抑制・失業率の低下と経済活動の拡大を齎せる事、⑦国民相互間の対話を復活させ、アルゼンチン共和国の再建にはイデオロギーを超越した共通の目的達成の為に国民全員が共闘する精神を植え付け、新時代のアルゼンチンを発展させる最重要な手段である事を自覚させる事、以上7項目に纏めた新政権の政策綱領を大統領就任式の舞台で簡潔に演説して国民の理解と同意を求めた。然し、③と⑦の点を除き、①から⑥までの公約のすべてに関し、見るべき成果を上げ得ていないか、逆に最貧困者層や青少年の犯罪増加等悪化している点も指摘されている。
2. この12年半間据え置かれていた大豆を除く農牧産品や鉱業産品に対する輸出留保金の廃止、公共料金の改定（改定が実現しても国民の負担額はコストの30%以下に過ぎないと試算されている）、給与の所得税課税免除額の天井を1万5千ペソから3万ペソに引き上げる事等、大統領令で改訂出来るものは矢継ぎ早に実行に移して行った事等は寧ろプラスの面に入れたいが、免除額の天井は引き上げられても、段階的に課税額を引き上げる％率は2000年デラルア時代にマチネァ経済相が立案し議会に上程して立法化されているので、本件の改訂は議会に政府案を提出し法律で改訂されなければならない。この為、名目給与額が3万ペソ（現在の換算率で約1900ドルに相当）以上のものには従来までの段階的課税基準が適応されるため、ほとんど減税効果がない。マクリは本件の議会提出は2017年に先送りしたいと述べ、労組幹部やセルヒオ・マッサ等の反対を呼んでいる。また、鉱物資源の輸出留保金を農牧資源の輸出と同等に扱って廃止したが、バリック・ゴールドのような環境保護に十分な注意を払わない金鉱開発業者等を不当に優遇する「愚策」だという批判も広がっているのに注意したい。前政権の失業対策補助金制度等幾重にも重なった補助金支給を継続させ、財政収支の悪化要因とインフレ率の低下を妨げる要因になっている。こうしたその場過しの安易な手段にメスを入れられないマクリの政治的基盤の脆さも問題を含んでいる。財政赤字で苦しんでいるのは中央政府だけではない。地方州政府も中央政府以上に財政赤字で苦しんでおり、これ以上財源を切り捨てて行ってはマクリ政権自体の財政運用が狂ってくる。高額所得者には1年位待って貰いたいと云うのもマクリの本音であろう。
3. 教員組合とブエノスアイレス州政府の賃上げ闘争は、教員組合書記長バラデルの強硬な姿勢が、エステーバン・ブールリッチ教育相も間に入った話し合いに応じず、3月1日より始まるべきだった小・中学校の授業開始が中断された。キルチネル政権時代、クリスチーナ大統領の2期目には、教員ストは日常茶飯事になっていたが、対話と共通の目的達成の為に共闘しようと言っているマクリ政権にとっては、出発直後における大きな躓きとなった。

以上を総括すると、マクリ政権は期待された経済面での効果よりも、未知数と見られていた政治面（特に議会工作）で大きな点数を稼ぐ事が出来たという意外な結果が出た。また、総括的な期待と評価も現時点では海外の点数の方が国内での評価を確実に上回っている。これは、国内の経済界重鎮や投資家間に、マクリが再選されるか否かで国内投資のルールと方向が大きく左右されるだろうという懸念が未だ根強く残っている為だ。

マクリに再選出馬の可能性を与えるのは2017年10月の中間選挙の結果次第である。この中間選挙では上院議員の3分の1と、下院議員の半数が改選される。ここで誰が勝ち、どの党派が勝利するかで、2018年の次回大統領選挙結果予想がほぼ確定すると言われている。この中間選挙でマクリ派議員が議席を大幅に伸ばす結果が出ればマクリの再選は確実視されて良い。然し、最大の票田、ブエノスアイレス州でPJ党に負けるような事態に至ればマクリの再選出馬さえ芽が出なくなる。問題は、広い意味でのペロニスタがブエノスアイレス州の有権者数の35%から40%近い固定票を有している事にある。2015年の選挙でマクリ派のマリア・エウヘニア・ビダルが州知事選に出馬し奇跡的な勝利を得たのは、ペロニスタがキルチネル派、マッサ派と正統派に3分裂した結果だった。マクリにとっては、次回の中間選挙でもPJ党がペロニスタ党として一本化しないように全力を挙げて阻止するしか手はない。然し、上記目的達成には、「クスチーナが公金横領・汚職腐敗マフィア首魁容疑で起訴され逮捕されるような事態は逆効果になる」という観測が民間世論調査機関では定説化してきているのには当惑するしかない。

財政赤字垂れ流しを防ぎ健全財政に復帰する事が、インフレ抑制に最も効果的な対策だと百も承知していながら、マクリ政権がブエノスアイレス州人口密集地帯の大半を制する貧困階層に対する補助金支出政策と手を切れない大きな理由でもある。

ポピュリズムは、最大の顧客である貧困階級や失業者層を増大させ、政府に依存しなければ生きていけないと考える階層を生かさず殺さずの補助金政策で自分の固定票田として来た。このキルチネル夫妻政権の12年半の歪みを是正するのは並大抵の仕事ではない。ここに、来年から2018年にかけての、アルゼンチン政治・経済情勢の不安要因が凝縮されている。

ここで注意しなければならないのは、今年の年末、クリスマスから大晦日にかけて、クリスチーナ前大統領支持勢力から陰で資金援助を受けている極左暴力集団が、ブエノスアイレス州の人口密集地帯に住む最貧困者層を扇動して、近郊のスーパーマーケットや食料品店街を襲撃させ、掠奪暴動を欲しいままにやらせ、マクリ政権を窮地に陥れる計画を準備中だという噂が流れだしている事である。パトリシア・ブールリッチ治安維持相がブエノスアイレス州知事の要請を受けて、国境警備が主目的である憲兵隊の一部を、あらためてブエノスアイレス州の人口密集地帯治安維持強化の為に呼び寄せることを決定したのも、上記情報を裏付けていると観測されている。1999年12月に就任してから1年そこそこだったデラルア大統領が組織的集団暴動に囲まれた大統領府からヘリコプターで脱出した辞任劇（2001年1月）の発端も、前年の年末に発生したブエノスアイレス州の人口密集地帯におけるスーパーマーケット襲撃掠奪だった事はアルゼンチン人の記憶に生々しく残っている。

マクリの考えているアルゼンチン再建策の方向が正鵠を射ている事は内外の政治・経済学者や有識者の等しく認める事である。それなのに、なぜ内外から民間資本が新規投資向けに続々と登場して来ないのか、その理由は只一つ、*PJ党出身ではないマクリがどこまで持つか、任期を全う出来ても、再選されて最低8年は継続しないと、マクリの改革路線は地に根を生やせないだろうと云う懸念が、投資家の頭から払拭されない為である。

当面の問題として今年のクリスマスと年末年始の祝事が平穏無事に終わる事を願って止まない。

以上。（2016年10月21日記）

* PJ党出身以外の公選大統領で任期を全うした者はペロニズムが顕在化した1945年以降現在に至るまで、一人もいない。

（きくち　かんじ：ブエノスアイレス在住、
KMK Consultores Asociados代表パートナー、
元在ウルグアイ日本大使館書記官、
元（株）EKIPARCON社長）

林屋永吉さんと私

中曽根　悟郎

平成28年5月24日。わが日本アルゼンチン協会定時総会の日。私は、総会は欠席したが夜の懇親会に出席する予定でいたところ、夕刻、木島副会長より拙宅に電話。“中曽根さん、林屋さんの訃報ご存知ですか。今晩音羽の護国寺でお通夜との由。自分はこれからそちらへ参ります。”林屋さんは既に5月18日、96才の天寿を全うされておられた。

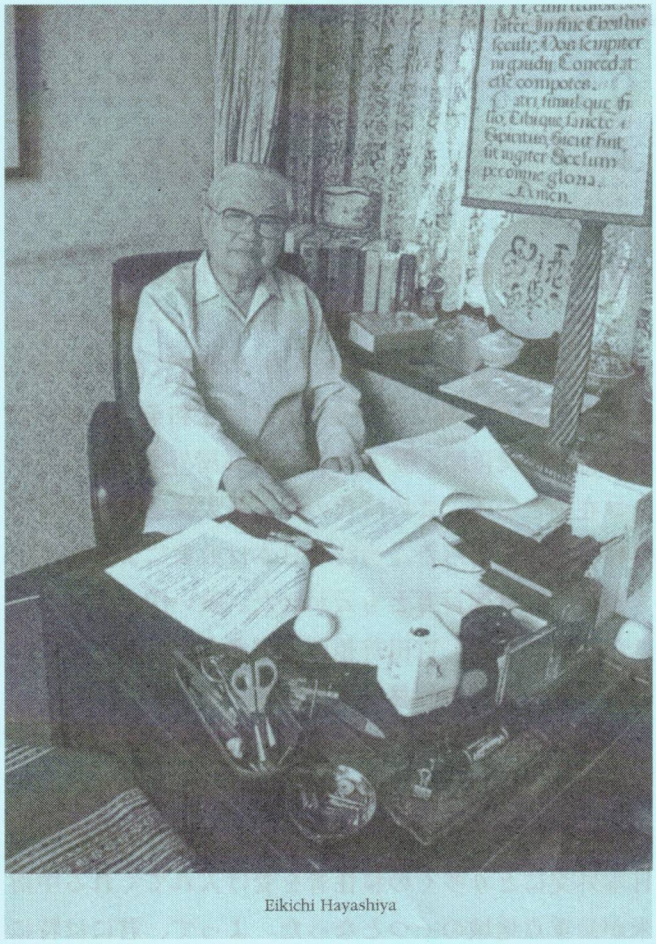
私は倅からもその翌日にこの悲報を知らされており、お通夜には私の名代も兼ねて彼が参上する手配をしていた。実は、倅は林屋さんの末っ子、三男の治夫君と同年で親友として長い付き合いであった。

林屋さんは、わが外務省で俗に云うスペイン語スクールの第一人者で、本邦スペイン語学界でも伝説的存在であられた。昭和15年（西暦1940年）、スペイン語学留学生として外務省入省。欧州では、既に第二次世界大戦がはじまっていたが、外交官の卵であった林屋さんにとって、スペインが中立を保っていてくれていたことは誠に幸運であった。そして、昭和16年の春、スペインへの留学発令。林屋さんは通常のヨーロッパ・ルートによるスペイン入国が不可能で、未だ国交のあった米国経由でスペインに辿り着く。そして昭和21年の帰国までほぼ5年間滞西。この間、スペイン最古のサラマンカ大学やスペインのアメリカ新大陸支配の歴史の文庫たるセビリヤ大学等で勉学。スペインの歴史・文化への造詣を深められた。

帰国した林屋さんを迎えた敗戦国日本は荒廃し、独立も失って外務省は敗戦連絡事務所という連合国占領軍と連絡して戦後事務処理を行う役所に変わっていた。昭和26年、サン・フランシスコ平和条約締結で独立回復・外交再開。翌27年には、林屋外交官補のメキシコ在勤となる。この時代の外交最大課題の一つが海外移住振興であった。当時の日本は敗戦により海外引き揚げ人口は四百万とも云われた。狭い国土では養いきれない実状で、吉田首相は米国から四百万ドルの借款をして国営“海外移住振興会社”を設立。外務省にとっては前代未聞の“移住局”が大黒柱になった。昭和30年、私が外交官試験に合格すると人事課長から“中曽根君、君は英語が達者のようだが、これからの日本外交にとり多くの移住者を受け入れてくれる中南米が最重点地域の一つとなった。よって、君には特にスペイン語を研修してもらう。”との命令。林屋さんは、外務省入省時には日本でスペイン語を修得済。それに引きかえ、小生にとりスペイン語は全く零からの出発。そして、小生も翌年スペイン留学となり、林屋さん同様サラマンカ大学へ。

昭和30年秋、林屋さんはメキシコからの帰国に先立って、当時メキシコ外務省の中間幹部で嘗て文化担当官として数年間日本で仕事をしていたオクタビオ・パス氏に、松尾芭蕉の“奥の細道”の共同翻訳を提案。早くも翌年には、メキシコ大学出版部から上梓されたが、パス氏自身によれば、世の関心を集めることはなかった。（その後15年間に亘る推敲を重ねた改訂版が昭和45年にスペインで出版され、共同著者として林屋さんも有名になった。）

昭和34年、外務省移住局での約4年間の勤務を経て今度は在アルゼンチン大使館副領事としての活躍が始まる。ここで、私は初めて林屋さんとめぐりあうこととなる。私はスペインで二年間の語学研修を修了し、林屋さんより一足先にアルゼンチン大使館付となり、政務・儀典担当外交官補を命ぜられていた。当時のアルゼンチンは、第二次世界大戦の消耗から復興途上にあった世界の中で中南米の雄藩であり、首都のブエノ



オクタビオ・パス氏との共同翻訳「奥の細道」の推敲をされている故林屋さん

ス・アイレスは文字通り“南米のパリ”として優雅華麗な大都市であった。しかしながら、世界的に有名なペロン大統領の長期政権も軍事クーデターで打倒され新しい民主政権への過渡期。政治・経済・社会諸情勢が流動的であったにも拘わらず、日本政府は日露戦争以来の友好国としてアルゼンチンを重視した。岸総理大臣、星島衆議院議長、湯川ノーベル賞受賞博士、石原慎太郎学生作家等々各界要人が同国を訪問した。わが大使館は多忙を極めた。林屋副領事はそして、“移住”担当官として殊更に忙殺されていた。

上述のとおり、移住振興重点政策の下アルゼンチン・ブラジル・ペルーの伝統的受け入れ国に加えて、政府主導“計画移住”先としてパラグアイ、ボリビア、ドミニカ三国との間に移住協定が締結され、特にパラ・ボリ両国への移住者はブエノス・アイレス港経由各々の入植地へ向かった。そして移住船“アルゼンチン丸”“ブラジル丸”が繰り返しブエノス入港の度に大使館領事部は文字通り大童。移民船を運航していた“大阪商船OSK”のブエノス支店は、云わば第二の大使館であった。当時独身の私は、時折林屋邸で園子令夫人の手料理を御馳走になり、二人の令息（明夫・眞夫君）と遊んだ。そして、末子で三男の治夫君はブエノスで産声を上げた。私にとり林屋さんからの終生の御恩は、私のアルゼンチン女性との国際結婚に際しての領事の立場からの格別なる御配慮である。

林屋さんは、昭和38年末まで約5年間アルゼンチンに在勤し、この間、昭和37年のフロンデイシ大統領の国賓としての訪日の際には一時帰国して池田総理との日ア両首脳会談の通訳を勤めた。ついで昭和38年帰国、アメリカ局中南米課及び“海外移住事業団”勤務を経て昭和43年末再度メキシコ在勤となる。二度目のメキシコでは大使館一等書記官、参事官と昇進、外務省内では知墨派第一人者となり、昭和50年には帰朝、本省国内広報課長に登用される。当時私も中南米第一課長として本省勤務。田中角栄総理大臣のメキシコ・ブラジル公式訪問に随行したが、総理がアルゼンチンをスキップしたことへの不満が非公式に伝えられ、担当課長として私は困惑した。そこで、大のアルゼンチン親派でペロン元大統領の墓参まで考えていたわが財界総理の一人である永野重雄元新日鉄社長を代表とし三菱商事始め六大商社社長を網羅した大経済使節団にアルゼンチンを公式訪問、日ア経済協力の拡大を協議してもらった。永野ミッションについては、朝日新聞が一面トップで報道し大いに注目されたが、わが国内広報上、林屋課長にも御支援賜った。

フロンデイシ・池田総理大臣会談の通訳として

時は流れて、昭和53年、林屋さんは特命全権大使に任じられ、在ボリビア勤務を拝命。ほぼ同時に私はスペイン大使館公使に転出。林屋さんには、ボリビアは嘗てのアルゼンチン時代や移住事業団当時、わが沖縄移住者入植をめぐり種々苦労を重ねられた処。今度は、大使として移住地の整備や移住者の地位向上に献身された。他方、私は二度目のスペイン。林屋さんと同じ古巣サラマンカの街を久々に訪れ、地元の名医ハラマ博士から若き日の林屋留学生の思い出話などを伺った。そして、昭和56年、私の三年に亘るスペイン在勤が終わるころ、林屋さんはボリビアからスペインに栄転。私は臨時代理大使としてマドリードで林屋新大使の着任を出迎え、事務引き継ぎを行った後、林屋さんが最も長く勤務した在メキシコ大使館へ公使として赴任した次第。

思い起こせば、林屋さんと私の関係は前世からの因縁かとも思われる。明るく関西弁なまりで人なつこく話される林屋さんのお人柄は万人に親しまれた。また、同じ外務省スペイン語族の先輩として、林屋さんは、小生にとり追い付、追い越すべき目標でもあった。最近では、第一線から引退した身として、年に数回、日本アルゼンチン協会始め在スペイン大使館や文化センター、JICA交流クラブ等の会合で出逢う度に、互いに老境を労り合い励まし合う間柄でもあった。

天寿を全うされた時には、園子令夫人、三人の令息達に見守られ誠に平安な昇天であられた趣。哀心より御冥福をお祈り申し上げます。　　合掌。

（なかそね　ごろう：元外務省、元パラグアイ大使）

“生誕100年”を迎えた「ラ・クンパルシータ」

島﨑　長次郎

今年（2016年）は、アルゼンチンの独立宣言（1816年）から丁度200年という記念すべき年に当たるが、さらにタンゴ・ファンにとっては、もうひとつ絶対に見落とせないものがある。それは、隣国ウルグアイの学生だったヘラルド・エルナン・マトス・ロドリゲスの書いた傑作「ラ・クンパルシータ」が誕生して、今年は丁度100年に当たることだ。

実は、この誕生をめぐっては従来から1914年～1917年までの諸説があったが、いずれもが確たる証拠に乏しく、決めかねる状況にあった。それはどこの時点を誕生と見るか、という問題とあわせ、さらに混迷の度を深めたともいえよう。誕生を①未完成ながら一応作曲したとき。②作品を楽譜の出版社に売ったとき、または出版したとき。③はじめてレコードに録音をしたときなど、どれを捉えて誕生と見るかで変わってくるからだ。こうした状況の中で、昨今アルゼンチンでほぼ定着してきたのが1916年説だ。それは確たる証拠にこれ以上のものはない③にあり、この作品の完成に手を貸した上で、1916年にこの世ではじめて録音（Odeon 483）を実現したロベルト・フィルポ（写真1.）の実績が、ここでは間違いなく大きく作用していると見られる。したがって、この説から、今年は「ラ・クンパルシータ」の生誕100年目の記念すべき年、ということになる。

（写真1.）*1916年に初録音されたロベルト・フィルポ楽団*

ところが、最近のこと、生まれ故郷のウルグアイから、来る2017年にこの「ラ・クンパルシータ」の100年を記念するイベントが予定されている、との情報が入ってきて、ファンとしてはさらに混乱が増幅することになってきそうだが、その根拠は、多分、首都のモンテビデオの中心部にある古い高層ビル、サルボ宮（Palacio Salvo）の、大通りに面した柱に取り付けてあるプレート（写真2.）にあるといえよう。

（写真2.）*ウルグアイのサルボ宮にある「初演」のプレート*

これは1996年にアルゼンチン・ガルデル協会が贈呈したもので、文面には“ここ、古いカフェ「ラ・フィラルダ」で、1917年に「ラ・クンパルシータ」はロベルト・フィルポによってはじめて演奏された。”と記されている。つまり、ウルグアイにおける＜初演＞を意味し、本来の＜誕生＞とは異なると考えるのが正しく、今年“生誕100年”は揺るがないといえよう。

いずれにしろ、魅惑に満ちた「ラ・クンパルシータ」は、“1日24時間、この広い地球上のどこかで、いささかも途切れることなく、常に演奏され続けている名曲”といわれるとおり、この100年の間に、世界の隅々まで広まり、各国の多くの人々に親しみ愛され続けられていることは欣快この上もないことで、タンゴ好きを自認する我々にとっての大きな誇りでもある。

世界を駆ける「ラ・クンパルシータ」の更なる発展を祈念し、ここに心からのエールを送り、その栄誉を讃えたい。

“Viva La Cumparsita!!”

（しまざき　ちょうじろう：
日本タンゴ・アカデミー名誉会長）

註：島崎長次郎氏の秘蔵コレクションの復刻版
「ラ・クンパルシータ全集（CD 2枚組）」
（５０曲収録）が発売中。

購入ご希望連絡先：

日本タンゴ・アカデミー
〒272-0834 千葉県市川市国分4-21-11
弓田　綾子
TEL: 080-1080-9179
E-Mail: aya-yumita@alpha.ocn.ne.jp

今年日本で発売された生誕100年記念
「ラ・クンパルシータ全集（CD2毎組）」

アルゼンチン政治経済短信

吉村　佳人

1. 安倍首相の訪亜

11月21日、安倍首相はペルーで開催されたAPEC首脳会議の後、日本の首相としては57年ぶりにアルゼンチンを訪問し、サン・マルティン広場にて献花を行った後、マクリ大統領と会談した。会談で両首脳は二国間関係をさらに強化し、「戦略的パートナー」として緊密に協力していくことを確認し、高級事務レベル協議を毎年行っていくことで一致した。また、投資協定の早期妥結等についても合意した。また、これに合わせて、大手商社3社が鉄道、穀物等の分野における経済協力の覚書に署名した。安倍首相の訪亜を契機として、両国間の活発な経済交流の発展が期待される。

2. 主な政治経済の動き

① 反雇用法に対する拒否権を発動

野党は4月雇用状況が危機的状況にあるとして180日の解雇禁止等からなる法案を国会に提出し、5月18日承認されたが、マクリ大統領は最低賃金を33%引き上げることを約束し、労組等に配慮しつつ、拒否権を発動した。

② OECDへの加盟申請

6月1日、アルゼンチン政府はOECDへの正式加盟申請を行った。

③ 預金目的の外貨購入制限の撤廃

8月8日、中銀は預金目的の外貨購入制限を撤廃した。

④ アルゼンチンビジネス・投資フォーラムの開催

9月12～15日にブエノスアイレスで「アルゼンチンビジネス・投資フォーラム」が開催され、海外から米国、イギリス、スペイン、ドイツ、日本、中国、韓国等68ヶ国から1688社、1000人を超えるCEOが参加し極めて盛況であった。フォーラムではマクリ大統領をはじめ主要閣僚、亜政府高官及び国内外の企業のトップら201名がアルゼンチンへの投資等に関し講演をおこない、アルゼンチンへの各国の関心の高さが示された。

⑤ OECDカントリーリスクカテゴリーの改善

10月、OECDはカントリーリスクカテゴリーを最低の「7」から「6」に引き上げた。本カテゴリーは一段階ずつしか改善されないが、亜の信用は格段に改善されていることから、来年には「5」に引き上げられると見られている。

⑥ 亜の経済見通し

10月、世銀は世界経済見通しを公表し、亜の経済成長率を16年▲1.5%、17年3%と予測している。また、IMFも10月に見通しを公表し、16年▲1.8%、17年2.7%と予測している。

3. 外交

● 要人の訪亜

① 10月3日、伯テメル大統領が訪亜し、マクリ大統

領と会談、メルコスールの一層の連携強化、両国間の関係強化について合意した。

② 8月7～9日、潘基文国連事務総長が訪亜し、マクリ大統領との昼食会に出席するとともにマルコーラ外相等と会談した。潘事務総長はアルゼンチン政府による国際場裏での取り組みを称賛した。

③ 7月28日、ニエト墨大統領が訪亜し、マクリ大統領と会談、両国間の貿易関係の深化を図るための自由貿易協定について協議した。

④ 8月7日、キスカ・スロバキア大統領が訪亜し、マクリ大統領と会談した。

⑤ 8月4日、ケリー米国務長官が訪亜し、マクリ大統領、マルコーラ外相等と会談した。ケリー長官は経済会合においてマクリ政権が「正しい道を進んでいる」と評価し、強い調子でマクリ政権への支持を明確にした。

● 大統領の外遊

7月、マクリ大統領はフランス、ベルギー、ドイツを訪問し、オランド仏大統領、メルケル独首相等と会談した。

4. 日亜関係

① マルコーラ外相の訪日

7月15日、マルコーラ外相が訪日し、岸田外務大臣と会談した。両外相は、両国間の要人往来の活発化の重要性、政治経済両面での関係強化等について一致するとともに、投資協定等貿易投資促進のための制度的枠組み構築の重要性、両国の官民を交えた対話活発化の重要性で一致した。

② 第一回日亜貿易投資合同委員会の開催

5月のミケティ副大統領の訪日時の合意に基づき、第一回日亜貿易投資合同委員会が8月12日ブエノスアイレスで開催され、二国間の貿易・投資拡大の前提となるビジネス環境の整備について議論が行われた。

③ JETRO主催アルゼンチンインフラミッションの訪亜

7月12～14日、米谷JETRO理事を団長とする75名のミッションが訪亜し、亜政府高官と活発な意見交換を行った。

④ 日亜投資協定の交渉開始

9月14～16日、ブエノスアイレスで日亜投資協定交渉の第一回会合が開催された。本協定が締結されれば、両国間の投資の大幅な拡大が期待される。一般に投資協定の締結には2年程度かかっているが、亜政府は早期の締結を望んでおり、交渉の加速化が期待される。

⑤ 貿易保険

8月25日、日本貿易保険（NEXI）はJA全農の主要取引先のアルゼンチン農業協同組合（ACA）向け中長期運転資金融資に対する貿易保険の引き受けを決めたと発表した。

⑥ 自動車生産投資の動向

7月4日、ミケティ副大統領、亜トヨタ社長は来年以降生産台数を30%拡大し、中米・カリブ地域にも輸出を開始する旨発表した。また、7月29日ゴーン日産社長はマクリ大統領と会談し、ピックアップトラック生産等に向けた8億ドルの投資計画を公表した。

5. 主な経済指標の動向

INDECはマクリ政権発足後、INDECの組織立て直しを行い、当初GDP、物価、生産活動等に関する発表を行わなかったが、人員を刷新し、逐次発表されるようになっている。

① GDP：16年第2四半期（4～6月）のGDPは前年同期比▲3.4%となり、リセッションが進行している。

② 経済活動指数：8月の経済活動指数は前年同期比▲2.6%であった。1～8月の平均下降率は2.3%であった。政府の見通しでは年後半は若干の改善が見込まれるとしている。

③ 物価：9月の消費者物価指数は前月比1.1%の上昇であった。また卸売物価指数は0.4%の上昇となった。

④ 失業率：8月、INDECは失業率が9.3%と発表した。特に29歳以下の若年層の失業率が18.9%と高くなっている。

⑤ 貧困率：INDECは本年第2四半期の貧困率を32.2%、極貧率を6.3%と発表した。本統計の公表は4年振りである。

⑥ 為替レート：10月末時点での為替レートは1ドル=15.18ペソであり、7月以降、15ペソ前後で比較的安定している。

⑦ Merval指数（亜株式指数）：10月末時点でのMerval指数は17610となっており、半年で4000近く上昇している。

（よしむら　よしと：当協会常務理事）

Resumen en castellano

por Irene Gashu

300 días del Gobierno de Macri (p. 2)

Por Kanji Kikuchi

Han pasado 321 días desde la asunción presidencial de Mauricio Macri. Resultados positivos: 1. Total liberación del control de cambios; 2. Apertura del diálogo con gobernadores y senadores kirchneristas; 3. Derogación de la Ley Cerrojo; 4. Acercamiento a EE.UU. y Europa; 5. Aprobación del sistema de voto electrónico por los diputados. Resultados negativos: 1. Aumento de la pobreza, la delincuencia juvenil y la inseguridad; 2. Quita de retenciones a las exportaciones mineras. Agravamiento de la ya delicada situación fiscal del gobierno central y de las provincias. 3. Crisis de la paritaria docente.

Eikichi Hayashiya y yo (p. 5)

Por Goro Nakasone

El Sr. Hayashiya falleció el 18 de mayo pasado. Tenía 96 años. De joven estuvo como diplomático en México. Nosotros trabajamos juntos en Argentina. En su calidad de Vice-Cónsul, el Sr. Hayashiya me ayudó mucho cuando me casé con una argentina. En 1955, fue nombrado Embajador en Bolivia y yo fui a España como Ministro. Para mí, el Sr. Hayashiya fue un modelo para emular. Que en paz descanse.

"La Cumparsita" cumple 100 años (p. 8)

Por Chojiro Shimazaki

Este año, "La Cumparsita", el tango compuesto por el uruguayo, Gerardo Hernán Matos Rodríguez, cumple 100 años, ya que fue grabada por primera vez por Roberto Firpo en 1916. En realidad, la fecha de nacimiento de esta obra es un tema controvertido. Los uruguayos festejarán el año que viene porque la obra fue interpretada por primera vez en 1917 en el café: "La Giralda" (hoy Palacio Salvo) de Montevideo.

Política y economía de Argentina (p. 9)

Por Yoshito Yoshimura

El Primer Ministro Abe visitó Argentina. El Presidente Macri vetó la ley antidespidos. Más de mil CEOs de 68 países incluyendo Japón, participaron en el Foro de Inversión y Negocios de Argentina. Los Presidentes de Brasil, México y Eslovaquia visitaron Argentina. La Canciller Malcorra visitó Japón. Se realizó en Bs.As. la Primera Reunión del Comité Conjunto Argentino-Japonés para la Promoción del Comercio y la Inversión. Indice de pobreza: 32,2%. El dólar está a 15,18 pesos. El MERVAL subió a 17.610.

協会の活動案内

～当協会主催「タンゴ音楽の集い」ー来年度開催予定

開催日程は、3月、6月、10月の第3金曜日です。

来年度のテーマ、他詳細は追ってご連絡します。ご期待ください。

～第5回定時総会、懇親会は、例年同様に来年5月下旬を予定しています。

協会の活動報告

～10月6日（木）～10月15日（土）茨城県境町町立長田小学校生徒がアルゼンチンを訪問

アルゼンチンとの交流が今年81年目を迎える長田小学校、これをずっと支援している境町は、昨年春就任された橋本町長の陣頭指揮のもと国際交流を主要テーマの一つとして進めている。長田小学校の長年に亘る交流行事を町レベルに引き上げて、更なる交流促進を図るため、町主催で長田小児童6名、境町教育長を含む関係者3名、長田小学校長を含む職員3名、計12名の訪問団を10月6日から10日間、アルゼンチンのブエノスアイレスに派遣した。現地では3日間のホームステイ、日本人学校、日亜学院、アルゼンチンの小学校を訪問して同年代の生徒との交流は勿論、日本大使館、ブエノスアイレス市役所、茨城県人会等を訪問すると共に市内見学をされて、10月15日（土）全員無事帰国された。

ホームステイ、市内見学等を通じ現地文化に触れ、更には現地テレビ番組に出演する等友好親善にも一役買った。この子供たちの派遣は、現地主要新聞も取り上げて報道され、且つ日本の全国紙でも取り上げられた。

この生徒現地訪問計画に関しては、当協会は、無事に所期の目的を達成するように、アルゼンチン駐在経験者の複数役員を、数回に亘り境町に派遣して打ち合わせし、協力してきた次第。

生徒の帰国後一番目の声は、“感動！、また行きたい”と。

境町は、2020年東京五輪・パラリンピックでのアルゼンチン選手団のホストタウンとして立候補しており、我が国が定めるホストタウンとしてすでに登録されている。

当協会としても、境町の掲げるアルゼンチンとの更なる友好交流の発展に向けて、一層の協力をして行く所存です。

～10月21日（金）当協会主催第31回「タンゴ音楽の集い」

当協会理事飯塚久夫氏の名解説とトークで毎回好評の「タンゴ音楽の集い」は、今年のテーマ「隠れたタンゴの名演、名唱を映像と音で発掘する」の第3回目、最終回であり、会場の銀座ブロッサム中央会館7階で開催された。

今回は、タンゴ会の大御所フランシスコ・カナロ、フリオ・デ・カロ、ミゲル・カロ、オスバルド・フレセド、フアン・ダリエンソの各系譜からの作品が紹介された。本年の締め括りでもあり、飯塚氏の解説も熱が入り、盛況な催しであった。本年はアルゼンチン独立200周年でもあり、プグリエーセの「7月9日（Nueve de Julio）」、ダリエンソの「これが王様だ！（Este es el Rey）」などの曲も演奏されて、会場の参加者（約50名）はタンゴに満喫した夕べになったと思います。

～10月24日（月）フェスティバルラテイノアメリカーノ2016へ協賛

例年恒例の（一社）日本・ラテンアメリカ婦人協会のチャリテイー・バザー（於；グランドプリンスホテル新高輪）に、アルゼンチン大使館を通じ、チケット20枚分の協力を行った。

～10月26日（水）武井外務大臣政務次官主催懇談会

中南米日系人指導者との懇談会が武井政務次官主催で外務省で開催され、当協会から渡部業務執行理事が参加した。

～10月28日（金）茨城県長田小学校「アルゼンチンの日の集い」

全生徒254人でベロー駐日アルゼンチン大使並びにガルデラ公使夫妻をお招きして、学校恒例行事の第28回「アルゼンチンの日の集い」が長田小学校で開催された。

当協会からは、保坂常務、藤田・木村両業務執行理事が招待を受けて参加。

今回は特に「生徒6名のアルゼンチン訪問報告」という一つの目玉があり、この訪問が生徒にとって大変楽しく、有意義なものであっただけに、生徒が主体で

催す今年の行事は非常に生徒の熱気で盛り上がり、生徒たちは、大使、公使夫妻を歓待した。

生徒の大正琴による「さくら」の演奏や合唱が披露、ベロー大使からはサッカーユニフォーム1チーム分が生徒たちに贈られた。

大使、公使ご一行は、その後、アルゼンチンと境町、長田小学校の友好交流のシンボルである「モンテネグロ会館」を視察後、境町役場を訪問され、橋本町長の歓待を受けた。

ご高承の通り、境町とアルゼンチンの友好交流の原点は1853年（嘉永6年）にペリー浦賀来航にあり、1933年（昭和8年）にアルツーロ・モンテネグロ（ペリー来航時同行していたモンテネグロ氏の孫）代理公使が来日され、野本作兵衛氏（ペリー来航時、江戸幕府指名によりペリー一行に応対のため浦賀に派遣された関宿藩右筆野本作次郎の孫で、長田小出身）と孫同士の接触で、祖父同士の友好が明らかとなり、これを契機に友好が本格化した。1935年にモンテネグロ公使が境町、長田小学校を訪問、1937年には地域の青年研修所として「モンテネグロ会館」が寄贈された。

同公使は、離日まで7年間、長田小学校に毎年奨学金として「モンテネグロ賞」を寄贈、また、境町の一部地域の電灯敷設のための資金をも寄贈している。

10月6日～10月15日の長田小生徒のアルゼンチン派遣は、昨年10月の「アルゼンチンの日の集い」の際、ご出席のデジャン前大使と境町橋本町長の間で、初めて話題に出たことですが、短期間に具体化して、この度成功裡に実現したことに対し、境町並びに長田小学校の熱意に敬意を表したいと思います。

当協会として、今後も出来うる限りの協力をして行く所存です。

～11月6日（日）
アルゼンチン共和国杯
（東京競馬場）

第54回アルゼンチン共和国杯（重賞Ⅱレース）が府中の東京競馬場で開催された。天候に恵まれ、35,811人の観衆が見守る中、15:35分レースはスタートし、2番人気の「シュブアルグラン」が馬場の中央から抜け出し、これまで7勝を挙げ旋風を巻き起こしていたルメール騎手騎乗の1番人気「モンドインテロ」を4着に退け、このＧⅡを制覇した。

レース終了後、アラン・ベロー駐日アルゼンチン共和国大使より優勝馬のオーナーである佐々木主浩氏（元ベイスターズ大魔神投手、元マリナーズ投手）に優勝カップが贈呈された。

また、レース終了後、パドックにて、2016年世界タンゴダンス選手権チャンピオンの「クリスチャン・パロモ／メリッサ・サッチ」及び「エンリケ・モラレス/カロリーナ・アルベリシ」の両ペアーによるタンゴ・ダンスが披露され、大勢の観衆が優雅で、官能的なアルゼンチン・タンゴ・ダンスを堪能された。

当協会から4組の役員夫妻他計10名の関係者が出席して観戦、その後ベロー大使他関係者と懇談した。

～11月12日（土）
第11回 アルゼンチン大使館主催
ゴルフトーナメント

神奈川カントリークラブの共催で、同クラブでアルゼンチン大使館・カップ・ゴルフトーナメントが開催された。今年はアルゼンチン独立200周年記念の年であり、約150名が参加し、プレイ終了後、クラブハウスにて、ベロー駐日アルゼンチン大使出席のもと盛大に懇親会が催された。アルゼンチン焼肉料理とアルゼンチンタンゴ・ダンスで参加者は堪能された。当協会より加藤常務理事が参加した。

200周年記念を祝し、当協会よりワイン1ダースを寄贈した。

～11月26日（土）
第4回 日本・アルゼンチン親善交流
サッカー大会
（三菱養和会巣鴨スポーツセンター・
サッカーグラウンド）

素晴らしい秋晴れにに恵まれ、今年8月に全面最新の人工芝に張り替えた素晴らしいピッチで、6試合の熱戦が行われて、ピッチでは選手がスピードのある白熱した戦いが、ギャラリーは熱い声援と拍手で例年に勝る盛り上がりで、アルゼンチン独立200周年記念大会にふさわしい、大成功のサッカー大会となった。

優勝チームは、低学年；BOCA（ボカ・ジュニアーズ）、高学年；埼玉オーステインSC、大人；長田小学校チームであった。

ベロー駐日アルゼンチン大使がご来場、それぞれの優勝チームに優勝カップを贈呈され、引き続き今回の記念大会を高く評価されてスピーチされた。

大使はそれぞれのチームの選手の中に交わり、子供達は大使を囲み全員でご来場を歓迎されたシーンは大変印象的であった。

アルゼンチン大使館、茨木県境町、長田小学校、三菱商事、三菱養和会、並びにボカ・ジュニアーズ・日本、埼玉オーステンSCのご支援、ご協力に対し、心から深謝申し上げます。

トピックス

第24回日亜経済合同委員会がブエノスアイレス市で開催

11月21日（月）、日本国首相の公式訪問としては57年ぶりとなる安倍首相のアルゼンチン訪問の機会を捉えて、同日16:15からホテル・ヒルトン・ブエノスアイレスに於いて、第24回（前回から2年ぶり）日亜経済合同委員会が開催された。

日本側から小林　健・日亜経済委員会委員長はじめ約45名、亜側からアンヘル・マチャード・亜日経済委員会会長はじめ約30名、総勢約75名が参加されて、マクリ新政権による構造改革の下、貿易・投資環境の改善の気運が高まる中での開催であった。参加者は新政権の新たな経済政策による大きな変化を実感し、両国間の貿易投資関係拡大への思いを新たにするものとなった。午前中の安倍・マクリ両首脳会談で、貿易・投資関係促進のため、「投資協定」交渉の早期妥結が指示される中での開催となり、マチャード委員長は安倍首相の今回の公式訪問が今後の両国関係に新たな道標を刻むことになろうと挨拶され、日本側小林委員長は両国側委員会と協働して両国貿易投資関係を一層拡大して行きたいと挨拶された。

また、来賓として出席された日本政府代表　長谷川榮一・内閣総理大臣補佐官は今回の会合を通じ両国企業の交流が一層活発化し、インフラ、エネルギー、農業、鉱業等の分野を中心に両国経済界の交流がさらに活発化することを確信している旨挨拶された。

今後両国間の人的、文化的交流も益々活発化されることが期待されます。

会員の皆様からの自由なご意見、情報、原稿投稿をお待ちしています

「アルヘンテイーナ」に会員からの自由な「会員投稿欄」を設けて、会員交流を図って行きたいと思います。
お住いの市町村名、年齢、お名前（ペンネームでもOK）記載してご投稿ください。お待ちしています。
投稿先：日本アルゼンチン協会　FAX: 03-6809-3682 E-mail: nippon@argentina.jp

協会ホームページの活用及びE-メール通信の件

1. ホームページ（URL:http://www.argentina.jp）

何らパスワードの入力は不要で、誰でも自由にホームページ内情報にアクセス出来ますので、ご活用ください。

2. E-mailアドレス

nippon@argentina.jpが、協会のE-mailアドレスです。

アルゼンチンに関わる興味ある情報やイベント案内を出来るだけタイムリーに会員の皆様にお伝えする為、E-mailアドレスを連絡頂いている会員の方にはメール通信を始めております。
このメール通信をまだ受信されていない方で、受信をご希望の方は、住所、氏名及びメール・アドレスを当協会メールアドレス宛（nippon@argentina.jp）発信、ご連絡下さい。次のメール通信から送信致します。
ご連絡頂きましたメール・アドレスは、当協会の情報伝達関係以外の用途には使用致しません。
ご質問その他お問い合わせある場合は、協会事務所宛お電話ください。

電話：03-6809-3681 担当；阿部

平成28年度 年会費納入のお願い

本年度（平成28年4月1日～平成29年3月31日迄）の年会費のお支払いがまだ未納になっている方が一部お見受けします。早めにお支払手続きを済まして頂きますようお願い申し上げます。

個人正会員：1万円
個人賛助会員：5千円

住所変更届けのお願い

ご住所が変わりました際は、早めに新住所を協会事務所にご連絡ください。

電話：03-6809-3681
FAX: 03-6809-3682
E-mail: nippon@argentina.jp

本会報のデザイン、記事の無断転用はお断りします。

編集長よりの御礼

執筆、原稿に当たっては、菊池寛士様、中曽根悟郎様、島﨑長次郎様にご協力頂きました。

スペイン語のサマリー（Resumen en castellano）は、イレーネ賀集さん（当協会理事）に作成して頂きました。

この場をおかりしまして、皆様のご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

日本アルゼンチン協会会報　第69号
2016年12月19日発行

発行人　永井　慎也（当協会理事長）
編集長　加藤　勝巳（当協会常務理事）
編集発行　一般社団法人　日本アルゼンチン協会
〒108-0073
東京都港区三田2-7-16 協和三田ビル3階
電話：03-6809-3681
FAX：03-6809-3682
E-mail：nippon@argentina.jp
URL：http://www.argentina.jp
印刷　株式会社　イデア・インスティテュート